

東京都練馬。1971年9月, 10月。

8. **オヒシバ** *Eleusine indica* Gaertn. (Fig. 1H) 小穂は3~6個の両性小花からなり, 下から上の小花へと咲きすすむ。雌雄同熟である。葯は長い花糸に支えられ, 濃紅紫色の柱頭より高い位置で全裂開する。葯と柱頭との間は0.5~1.0 mmほど離れており, 積極的に同花受粉をする花ではない。花後子房が肥大した小花の率は25株の118小花中102小花(86%)であった。調査: 東京都練馬。1971年9月。

9. **ネズミノオ** *Sporobolus indicus* R. Br. (Fig. 1I) 小穂は1個の両性小花よりなる。開花時に内外両花類は60度ほど開き, 淡色の柱頭を小穂の両側につき出し, 紫色の葯は類より高い位置で裂ける。葯と柱頭が接しての同花受粉はまれにしかおきないが, 小穂が密集しているためしばしば隣花受粉がおき, 35%ほどの花で同花受粉か隣花受粉をしていた。花後, 葯は落ち, 柱頭は枯れて類外にのこる。類は完全に閉じず10度ほど開いたままである。調査: 東京都板橋。1972年9月。

10. **シバ** *Zoysia japonica* Steud. (Fig. 1J) 小穂は1個の両性小花からなり, 花序の上から下へと咲きすすむ。小花の外がわをつつむ革質で歪卵形の穎(第2苞穎)は縁辺の下部1/3が合している。上2/3の縁辺は膜質で合していない。鱗被はなく, 柱頭や雄蕊は第2苞穎の膜質部をおし開いて花外に出る。小花は雌性→中性→雄性と変化する雌性先熟花である。はじめ, 白色の柱頭が穎の外に出て雌性期となる。その柱頭が枯れて中性状態になってのち, 淡黄色か濃紫色の葯が穎の外に出て雄性期となる。調査: 埼玉県入間。1972年5月。

11. **チカラシバ** *Pennisetum alopecuroides* Spreng. form. *purpurascens* Ohwi (Fig. 1K) 小穂は両性の1小花からなる。鱗被はあるが膨大して穎をおし開くことはなく, 花柱や雄蕊はゆるくくみあっている穎の先をおし開いて花外に出る。花は雌性→中性→雄性または雌性→雄性と変化する雌性先熟花で同花受粉はできない。花穂がのび小穂が葉鞘から出るとただちに白い花柱がのび出てくる。このとき小穂は大地に対し垂直に近い位置にある。そのご花柱は枯れ, あとからのびてくる雄蕊におされて脱落する。雄蕊も穎の先から出て裂開する。この時期には小穂は斜め上むきになり, 長い花糸に支えられた葯は先端から裂けはじめ, 他端におよび全裂する。調査: 東京都板橋。1972年9月。

(続く)

●ホシクサ属の1新植物について (佐竹義輔) Yoshisuke SATAKE: A new taxon of *Eriocaulon*

生物学御研究所のホシクサ属標本に新変種と思われるものがあったので報告する。これは, 栃木県塩谷郡塩原町の, 富士山(海拔1184 m)と大沼との間にある小沼という小湿原(海拔約970 m)に産し, 1973年8月7日に川村文吾氏が採集したもので,

ヨシの群落の下，ミズゴケ類の中に，ミカズキグサ，オオイヌノハナヒゲ，ミツガシワ，モウセンゴケなどにまじってはえていたという。

この植物は，外見繊細で，イトイヌノヒゲ *E. decemflorum* を思わせるが，花部を検鏡すると明らかに合がく節のものである。花床が無毛であること，雌花のがくの内面に毛がないことはミヤマヒナホシグサ *E. nanellum* Ohwi に近縁であることを示すが，雌花の花弁の内面は有毛であり，茎花も葉も長く，総苞片はやや鋭頭で乾くと白色になるので，その新変種と考える。産地にちなみ，和名をコヌマイヌノヒゲ，学名を *E. nanellum* var. *piliferum* として発表する。本植物を研究する機会を与えられ，その標本を筆者に御下賜になった生物学御研究所に深謝し，Holotype を国立科学博物館に，Isotype を東大資料館に寄贈し，保管を御願ひする。

コヌマイヌノヒゲ (新称)

無茎の1年草。葉は線形，薄質，長さ5 cm 内外，1-3 脈。花茎は高さ10-20 cm，細く，径0.5 mm 以下，3 肋があり，多少ねじれる。頭花は径2-3 mm，総苞片は緑白色で卵状または長だ円状披針形，やや鋭頭で長さ2.5-3.5 mm，花床は無毛。花は少数，平均して雄花2，雌花2。長さ2 mm くらい，総苞片より短い。雄花のがくはさきが3 浅裂，裂片は鈍形で縁に単細胞の短毛が少しある。雌花：がくは藍黒色でさきは3 浅裂，裂片は鋭形，縁に単細胞の短毛があり，内面は全く無毛。花弁の内面には長毛が多い。子房は3 室。種子は未熟であるが長だ円形で長さ0.6-0.7 mm。

Eriocaulon nanellum Ohwi in Bot. Mag. Tokyo, 44: 566 (1930).

var. *piliferum* Satake, var. nov.

Folia linearia, tenuia, ca. 5 cm longa, 1-3-nervia. Pedunculi filiformes, 10-20 cm alti, 3-costati. Capitula obconica, pauciflora (♂ 2 et ♀ 2), 2-3 mm in diametro. Bractee involucrentes albo-virides, ovato-vel oblongo-lanceolatae, 2.5-3.5 mm longae, apice subacutae. Receptaculum glabrum. Flos ♂: sepala ca. 2 mm longa, in spatham antice fissam connata, apice tricrenulata, margine sparse puberula. Flos ♀: sepala ca. 2 cm longa, olivaceo-atrata, in spatham antice fissam connata, apice trilobulata, lobulis triangulatis, margine sparse puberula, intus toto glabra; petala 3, libera, lanceolata, basi cuneato-stipitata, intus pilifera.

Hab. Konuma moor (ca. 970 m above sea level), near Shiobara-machi, Tochigi Pref. (B. Kawamura, Aug. 7, 1973, n. 316852-typus in TNS).

This new variety resembles *E. nanellum* Ohwi, but is distinguished by pilose female petals, longer leaves and peduncles, and whitish acute involucrent bracts.

(浦和市 〇〇〇〇)